



蔵書検索・予約はコチラ

あけましておめでとうございます



冬休みはいかがでしたか？

新しい年を迎え、気持ちも新たに3学期がスタートしました。

今年は午(うま)年です。

馬が駆け抜けるように、皆さんにとっても飛躍の一年になりますように。

まほら館では、新春イベント盛りだくさんで皆さんを待っています！ 勉強の息抜きや、運試しにぜひ来てください。

まほら館新春イベント開催中

運命の本に出会う!? 本の福袋

中身が見えない袋に、本の中に出てくる「セリフ」や「文章」の一部だけを貼っています。タイトルや表紙ではなく、言葉の響きだけで選んでみませんか？「このセリフ、かっこいい！」「これ、どういう状況？」……そんな直感で選んだ本が、あなたの人生を変える一冊になるかもしれません。



今年の運勢を占おう！ まほら館おみくじ

大吉・中吉などの運勢と一緒に、おすすめの本が書かれています。ラッキーブックを読んで、さらに運気をアップさせましょう！

想いを言葉に！「絵馬コーナー」

まほら館内掲示板前に絵馬を用意しました。「第一志望合格！」「本を50冊読む」「推し活充実」など、今年の抱負や目標を自由に書いて貼ってください。皆さんの願いが叶いますように！

午年にちなんだ本 ～国が変わればこんなに違う!? 年末年始の過ごし方～

今年の干支、「午」には、成功や飛躍、勝利などの縁起のいい意味があります。そんな年にぴったりの本を集めました。



『うまたん：ウマ探偵ルイスの大穴推理』

東川篤哉 著

PHP 研究所, 2022 年刊

田舎の乗馬クラブで起こった殺人事件。容疑者は馬のロック。腑に落ちない牧場の娘・陽子に、元競走馬のルイスが突然話しかけてきて…。不可解な事件の数々に、馬と女子高生のコンビが挑む連作ミステリー。

馬が事件を解決するユニークな作品です。



『ぼく モグラ キツネ 馬』

チャーリー・マッケジー 著 川村 元気 訳

飛鳥新社, 2021 年刊

じぶんにやさしくすることが、いちばんのやさしさなんだ。やさしくされるのをまつんじゃなくて、じぶんにやさしくなればいいのさ——。

子どもから大人まで、だれの心にも入り込み、力をくれる人生寓話をイラストとともに綴る優しい物語です。



『競走馬の科学 速い馬とはこういう馬だ』

JRA 競走馬総合研究所 編

講談社, 2006 年刊

走ることを最優先に改良されてきた競走馬。それゆえにデリケートな体のつくりと、彼らの衣装、晴れ舞台の馬場と、装具のすべてを紹介。この一冊で、明日の出走場の血統・馬体・馬場・レース配分がわかる！



『坂本龍馬を歩く』

一坂 太郎 著

山と溪谷社, 2006 年刊

名前に「馬」がつく有名人といえば、やっぱり坂本龍馬ですね。この本は、若き日の江戸遊歴から、最期の地・京都まで、その苦悶の軌跡を、龍馬が歩いた日本各地に追う異色の旅ガイドです。

直木賞・芥川賞を知ろう

芥川賞と直木賞は、日本文学振興会が主催する文学賞で、作家の菊池寛が友人の芥川龍之介と直木三十五を記念して創設しました。

上半期と下半期に分け、年2回発表されます。

芥川賞は芸術性を重んじる「純文学」の新人作家による短・中編が対象です。

対して直木賞は、エンターテインメント性の高い「大衆文学」作品を執筆する中堅・ベテラン作家の長編が対象となります。話題作も多く、読書を始める良いきっかけになる賞です。



芥川 龍之介(あくたがわ りゅうのすけ)
1892年3月1日生まれ、1927年7月24日没
大正時代を代表する小説家で『羅生門』や『鼻』が夏目漱石に絶賛され、文壇に登場しました。古典を題材にした理知的な短編を多く残し、晩年は『河童』など社会風刺を含んだ名作を世に送り出しました。



直木 三十五(なおき さんじゅうご)
1891年2月12日生まれ、1934年2月24日没
大正から昭和初期に活躍した小説家・脚本家です。『南国太平記』などの歴史・時代小説で一世を風靡しました。また、映画制作にも深く関わり、独自の芸術観で大衆文芸の地位向上に大きく貢献しました。

第174回直木賞・芥川賞ノミネート作品
2025年下半期の受賞作の発表は1月14日です。

○直木賞候補作

候補者	候補作	出版社
嶋津輝	カフェーの帰り道	東京創元社
住田祐	白鷺(はくろ)立つ	文藝春秋
大門剛明	神都(しんと)の証人	講談社
葉真中顕	家族	文藝春秋
渡辺優	女王様の電話番	集英社

○芥川賞候補作

候補者	候補作	掲載誌
久栖博季	貝殻航路	新潮
坂崎かおる	へび	文藝界
坂本湾	BOXBOXBOXBOX	文藝
鳥山まこと	時の家	群像
畠山丑雄	叫び	新潮

直木賞・芥川賞 過去の受賞作品

直木賞・芥川賞を受賞した作品の中から、おすすめの本を紹介します。

ここで紹介した本は、図書館入り口すぐの「直木賞・芥川賞コーナー」に置いてあります。ぜひ読んでみましょう。



『蜜蜂と遠雷』 第156回直木賞受賞

恩田陸 著

幻冬舎, 2016年刊

世界を転々としピアノを持たない少年、かつての天才少女、サラリーマン。3年に一度開催される芳ヶ江国際ピアノコンクールを舞台に、4人の若きピアニストたちがそれぞれの葛藤や背景を抱えながら、音楽と自分自身と向き合い成長していく物語です。



『木挽町のあだ討ち』 第169回直木賞受賞

永井 紗耶子 著

新潮社, 2023年刊

雪の降る夜、芝居小屋のすぐそばで、美しい若衆によるみごとなあだ討ちが成し遂げられた。2年後、ある若侍が大事件の顛末を聞きたいと木挽町を訪れる。芝居者たちの話から炙り出される真相は…。2026年2月に映画が全国公開されます。



『推し、燃ゆ』 第164回芥川賞受賞

宇佐見 りん 著

河出書房新社, 2020年刊

アイドル「上野真幸」を推すことだけが生きがだった女子高生・あかりが、推しがファンを殴った事件で炎上し、活動休止・引退へと追い込まれる中で、心の支えを失い、自身の存在や現実と向き合う姿を描く物語です。



『おいしいごはんが食べられますように』 第167回芥川賞受賞

高瀬 隼子 著

講談社, 2022年刊

職場でそこそこうまくやっている二谷と、皆が守りたくなる存在で料理上手な芦川と、仕事ができてがんばり屋の押尾。ままならない人間関係を、食べものを通して描く傑作。心をざわつかせる、仕事+食べもの+恋愛小説。